

〈紙上演〉感情表現の諸相：類型論的観点から

王, 安

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

104

(開始ページ / Start Page)

73

(終了ページ / End Page)

59

(発行年 / Year)

2021-08-31

感情表現の諸相：類型論的観点から

王 安

皆さん、こんにちは。日本文学科の王安です。私は2019年の4月に法政大学文学部日本文学科に着任し、今年で3年目となります。本来ならば着任した年に国文学会のお場をお借りして、自己紹介もかねた研究紹介を行う予定だったのですが、コロナ禍の影響等の事情により、本日まで実現できませんでした。大変遅くなりましたが、本日紙上演という形で、私の研究についてお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

1. はじめに：自己紹介

私は2000年3月に来日し、北海道大学大学院文学研究科言語文学専攻に入学しました。修士課程及び博士課程を経て2006年3月に博士学位（言語文学）を取得しました。その後2019年4月に法政大学に着任するまで、島根大学外国語教育センター、関西学院大学国際学部、岡山大学文学部で仕事をさせて頂き、いずれの大学でも大変貴重な経験と良い勉強をさせて頂きました。

私の専門分野及び研究関心は主に以下の三つです。一つ目は感情表現における対照研究、類型論的研究です。二つ目は現代中国語文法に関する研究、とりわけ現代中国語形容詞の意味と機能、使役文・受け身文などのヴォイスについて強い関心を持っています。三つ目は認知言語学の分野における研究で、特に主体化や文法化などの現象に興味があります。紙幅の都合上、以下では主に一つ目の感情表現における類型論的研究を中心に講演させていただき、最後に最近の研究状況と今後の展望についても簡単にご紹介いたします。

2. 博士課程までの研究概要

私が研究対象としている感情表現⁽¹⁾とは、主に感嘆詞や“喜怒哀楽”などの

人間の内的感情を表す形容詞⁽²⁾及び動詞表現を指しています。例えば、日本語の「嬉しい」「悲しい」「悲しむ」「喜ぶ」などがその典型例です。豊かな感情を有することは人間ならではの特徴ともいえるため、各言語は必ず感情を表す一連の表現や方法を有しており、感情表現における研究も個々の言語において古くから関心を集め、語彙的・統語論的また意味論的・語用論的観点から数多く考察されてきました。⁽³⁾日本語研究においても感情表現はしばしば取り上げられ、特に日本語の感情形容詞述語文は、「*彼は嬉しい」とは言えず、「(私は)嬉しい」のように話者一人称の感情しか表せないという人称制限の特徴があることから、これまで大変注目されてきました。この人称制限への疑問と追究が私の研究の出発点となりました。

人称制限の生じた原因に言及した代表的な研究としては、早くは西尾(1972)が挙げられます。西尾(1972)は初めて日本語の形容詞を「属性形容詞」と「感情形容詞」に二分類⁽⁴⁾し、感情形容詞に人称制限がみられるのは「他者の感情を直接知りえないため」であると指摘しました。それから2000年前後までの長い間、「感情の認識問題」は人称制限の原因として広く知れ渡り、感情形容詞における数多くの研究は全てこれを基に展開され、また基本的には日本語特有の現象として扱う傾向が強く見られました。

これらの先行研究に対し、私は大きな疑問を抱きました。なぜなら、心理学の研究によれば、「他人の感情を直接知りえない」という「感情の認識問題」は人間全てに共通する事実であり、⁽⁵⁾日本語話者に限定される現象ではないからです。もし「感情の認識問題」が人称制限を引き起こす原因なのだとすれば、英語や中国語の感情形容詞述語文にも日本語の場合と同様に人称制限が起きなければなりません。しかしながら「He is happy」や「他很高兴(彼はうれしい)」のように、英語や中国語は他者の感情でもそのまま形容詞述語文を用いて表現でき、人称制限は起きていません。つまり、どの言語の話者にとっても他人の感情を直接には知りえないにもかかわらず、人称制限はある言語の感情形容詞述語文には発生し、ある言語の感情形容詞述語文には発生しなかった、ということになります。そこで、私は人称制限を引き起こす根本的な原因は「感情の認識問題」ではなく、それぞれの言語において感情形容詞述語文が果たす機能にあるのではないかと考えました。この考えに基づき、私は修士論文(王安2003)で、日中両言語の感情形容詞が持つ意味と機能の差異を考察し、両言語の形容詞にはそれぞれ「感情の表出」機能と「感情の描写」機能という機能面での相違があることを指摘したうえで、人称制限は「感情の表出」機能を担う言語形式にのみ見られる汎言語的な特徴である、という仮説を立てました。

ついで博士論文(王安2006a)では、上述の仮説を証明するために、日中両言

語の感情表現体系全体を比較対照しました。両言語それぞれの「感情の表出」と「感情の描写」を捉える表現と方法を精査することによって、中国語においても「感情の表出」を捉える言語表現には人称制限が存在することを明らかにしました。つまり、人称制限は日本語特有の現象ではなく、感情の普遍性を裏付けとした各言語の「感情の表出」を捉える言語表現に共通する特徴だったのです。

また、これらの研究を進める中で、私は従来の感情表現に関する研究には以下のような問題点があることに気付きました。すなわち、従来の研究はそのほとんどが言語間の相違点にのみ注目しており、感情の普遍性⁽⁶⁾とその言語化はあまり重視されて来なかったこと、用いられた用例の殆どが作例で、現実での使用実態（言語事実）が反映されていなかったこと、感情を表す形容詞に関心が偏り、感情表現そのものを体系的に捉えようとするものが少なかったこと、この三つです。そこで、私は感情の普遍性がどのように各言語に反映されているのか、それを捉える言語形式には共通点があるのかという問題意識を持ち、類型論的観点から感情の普遍性と言語表現の関連性を追究しようと考えに至りました。そして、学術振興会科学研究費基盤研究（C）の助成を受けながら、日英中韓独仏を含む6言語の感情表現を対象に、感情表現の構文パターン⁽⁷⁾と感情の捉え方における認知類型学的実証研究を行いました。⁽⁸⁾このように、感情の普遍性に着目しつつ、感情表現の多様性と共通点を言語事実に基づいて体系的かつ通言語的に捉える、というのが私の研究の主な特色です。次に、研究成果の一部をご紹介します。

3. 感情の普遍性とその言語化

3.1 6言語の実例データベースの構築

まず、村上春樹の作品のうち、対象とする6言語に翻訳されている10作品を選び出し、その中の感情表現を含む用例を全て抽出し、「会話文」「非会話文」に分類した検索可能な実例データベースの構築を行いました。ただし、現時点でそれぞれの言語の専門家によって用例分析の適切性まで担保できているのは、以下の4作品における日英中韓独5言語のデータです。

〈表1〉

年代	出版年	作品タイトル
1980年～1990年	1982年	『羊をめぐる冒険』（『羊』）
1991年～2000年	1992年	『国境の南、太陽の西』（『国』）
2001年～2010年	2004年	『アフターダーク』（『ア』）
2011年～2017年	2013年	『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（『色』）

以下では、この4作品にみえる会話文を中心に、類型論的な観点から5言語の感情表現構文パターンと感情に対する捉え方の傾向を解説していきます。

3.2 構文パターンから見る5言語の感情表現の使用実態、共通点および相違点

3.2.1 構文パターンの使用実態

感情事象は感情主、刺激対象、引き起こされた感情という三つの要素から構成されています。⁽⁹⁾感情を言語化する際に、5言語ではそれぞれどの構文パターンを優先的に選択するのか、慣習的なパターンがあるのかは感情事象の概念化における5言語の特徴と傾向を示唆してくれます。実際に収集したデータを調査した結果、5言語では主に以下の7つ⁽¹⁰⁾の構文パターンが使われていることが分かりました。すなわち、Ⅰ一語文、Ⅱ形容詞述語文（“形容詞文”）、Ⅲ動詞述語文（“動詞文”）、Ⅳ使役構造、Ⅴ受身構造、Ⅵ連体修飾構造（以下では“連体句”）、Ⅶ連用修飾です。各パターンにおける5言語の具体的な用例数分布は以下の表2の通りとなります。ここではⅠ～Ⅴを中心に、まず各言語に見られる構文パターンの全体像を説明します。⁽¹¹⁾

〈表2〉4作品における5言語の構文パターン用例数分布

全4作品統計	日本語	韓国語	中国語	英語	ドイツ語
Ⅰ. 一語文	7	6	6	9 (感嘆文：1)	7
Ⅱ. 形容詞文	213	166	129	111	84
Ⅲ. 動詞文	87	133	183	119	155 (再帰文：37 Haben+N：24)
Ⅳ. 使役構造	4	4	16	13	30
Ⅴ. 受身構造	4	1	1	37	7
Ⅵ. 連体句	97	94	49	63	47
Ⅶ. 連用修飾	15	5	3	3	17
Ⅷ. その他	7	25	47	79	87
用例合計	434	434	434	434	434

- 形容詞文・動詞文：日本語の感情形容詞は表出の機能を担うため、日本語では形容詞文が他言語に比べて多く使用されています。また韓国語は言語類型的に日本語と類似点が多いため、やはり形容詞文が動詞文より多用される傾

向が見られました。一方、英語では動詞文のほうが多く用いられると予測したが、予測に反して、動詞文と形容詞文はほぼ同じ比率で用いられていることがわかった。中独はともに動詞文が形容詞文より多用されていますが、中国語に関しては感情動詞が他の類の動詞に比べて感情形容詞的な特徴を帯びており、形容詞と区別しにくい点を考慮する必要があります。つまり、動詞文が多用されるという特徴が明確に捉えられたのは独語のみ、ということになります。

- 使役構造：ここで注目したいのは、感情を直接表出する際、例えば「とてもうれしいです！」というような場合において、使役構造が用いられるかどうかという点です。一般的に使役構造は感情の表出には向いていないとされており、日韓両言語では実際にほとんど使役文は用いられていません。一方で、中独両言語では感情の表出でも使役表現が用いられており、両者に予想外の類似性があることがわかりました。また、英語の場合は、まず先行研究の指摘（中村捷 2004、クロフト 2011、Iwata1995）に反して、語彙使役・分析使役ともに使用率が低い実態が確認されました。次に、確認できた英語の使役文はいずれも感情の表出を表すものではなく、感情の描写を捉えるものでした。以上のように、使役構造に関しては、中独両言語に興味深い特徴が見られました。この点について、3.2.3 節で詳しく説明を行います。
- 受身構造：日英独に見られますが、互いに質が異なります。中韓ではそれぞれ 1 例しか見つからず、感情表現における受動文の使用は殆どないことがわかりました。

以上、5 言語の感情表現構文パターンの使用実態を概観しました。続いて具体例を見ながらこうした構文パターンの使用傾向から浮かび上がってくる感情事象の概念化における 5 言語の特徴、共通点、相違点を見てみましょう。

3.2.2 「一語文」の普遍性と人称制限の汎言語性

一語文とは、例えば何かプレゼントをもらって「あ、うれしい！」と言う場合のように、生じた感情をそのまま吐露する際に用いられる表現です。これまでの研究では、日本語は感情形容詞が主語を明示せず一語文の形で感情の表出を表せるのに対し、英語や他の言語は基本的に主語が明示される、とされてきました（中村芳久 2004、濱田 2016：146）。しかし 5 言語のデータを調査したところ、日本語のみならず英独中韓の 4 言語でも、以下の例 (1) ～ (6) のように主語を明示しない一語文の使用が認められることが判明しました。また、日本語の一語文「うれしい！」が一人称話者の表出に限定されるのと同様に、(1) ～ (6) も一人称話者による感情の表出に限られています。つまり、感情の表出の場合、人称制限

は汎言語的に存在しているのです。⁽¹²⁾ ただし、言語によっては一語文を構成できる形容詞のタイプには制限があるようです。例えば、ドイツ語の一語文はほとんどの場合「面白い」「おかしい」などのいわゆる品定めの形容詞（寺村 1982）に限られ、英語は品定めの形容詞（例（2））のほかに例（6）のような感情形容詞による一語文も少ないながら観察されました。また中国語は、感情形容詞だけでは一語文を構成できず、一語文として機能させるためには（4）のように副詞「真」などの表出副詞の付加が必要となります（王安 2006a、2014、2016）。

- (1) “Komisch.” 「おかしいなあ」 『羊』
- (2) “Interesting.” 「面白いなあ」 『色』
- (3) “Interessant.” 「面白いなあ」 『色』
- (4) 「真高兴。」 「うれしいわ」 『羊』
- (5) 「가엾어라」 「かわいそうに」 『国』
- (6) “Delighted” 「うれしいわ」 『国』

以上のように、言語間における差異はあるものの、感情の表出においてはどの言語でも一語文（一語文的な表現）が観察され、しかもそれには人称制限が存在するという点を明らかにした点は、本研究における大変有意義な成果といえるでしょう（王安 2006a、2006b、2014、2016）。

3.2.3 使役構造（Causative Construction）と感情事象の概念化

ここでいう「使役構造」（以下では“CC”）は、一般的にいう語彙使役、使役文のほかに、使役文ではないが使役的意味合いを持つ表現などを含みます。日本語の場合、周知のように感情を表す際に使役文がほとんど用いられません。データベースにおいてもわずか2例しかなく、韓国語も同数でした。英語でも、使役文の使用は4例に留まり、“surprise”や“disappoint”など、先行研究（中村捷 2004、クロフト 2011、Iwata1995、濱田 2016）でしばしば指摘されてきた語彙使役も、合わせてわずか9例、いずれも刺激物から感情主に明確な働きかけがある場合、または強調される場合の例です（例（7））。

- (7) “I don't want to hear anything about her. Don't make me suffer any more than I already have...” 『国』
「その女の人の話なんて何も聞きたくない。私にこれ以上辛い思いをさせないで...」

一方、中独は異なる言語体系を持つにも関わらず、感情表現における CC の使用頻度はともに高く、しかもいずれも例 (8) (9) のように CC を用いて感情の表出を捉えることもできます。⁽¹³⁾

- (8) “Das freut mich aber!” (直訳：そのことは私を喜ばせるわ) 『羊』
日：「うれしいわ」
- (9) “能 见到 你 真 叫 人 高兴。” 『羊』
～できる 目にする あなた 本当に cause 人 うれしい
(直訳：君に会えて (そのことは) 本当に人 (私) をうれしくさせる)
日：「君に会えてうれしかったよ。」

独語は中国語よりも CC の使用頻度が高く、例 (8) に示した語彙使役「Freuen ～」(～を喜ばせる) のほかに、使役の意味合いを持つ表現「machen + 3 格 (～に) + N」(ある感情をもたらす)、「machen + 4 格 (～を) + Adj」(～くさせる) (例 (10)) の使用や分離動詞「tun+Adj」⁽¹⁴⁾ (～く / にする) (例 (11)) を用いる動詞文など様々なパターンが観察されました。これらはパターンこそ異なるものの、感情主・刺激対象・生起する感情の三者関係からみた場合、いずれも刺激対象を主語に据え、刺激対象から感情主への働きかけが強調される点で共通しています。つまり、これらの CC は感情が自ずから発生したのではなく、刺激物による外部原因の影響で引き起こされたものであるという、感情生起の外部要因及び因果関係を重視する独語の捉え方と発想の産物であると考えられます。以下では紙幅の都合上、独語と日本語のみを対照させて挙げましたが、他 3 言語でも日本語と同様形容詞文や動詞文等を用いて表現しています。

- (10) “Es macht mich fast neidisch, dir zuzuhören.” 『国』
それ させる 私を ほとんど嫉妬している・妬んでいる 君に ～に耳を傾ける
(使役構造：あなた (の話) に耳を傾けて、それが私を嫉妬させる)
日：「だから私はいまあなたが話したようなことを聞いていると、とても羨ましいのよ。」
- (11) “Es tut mir nur weh. Sehr weh.” 『国』
それ ～の作用をする 私に ただ 悲しい とても悲しい
(使役構造：それが私を悲しくさせる、とても悲しい)
日：「私はただ辛いだけよ、ものすごくつらいだけよ」(形容詞文)

3.2.4 受動構造 (Passive Construction) と感情事象の概念化

ここでいう「受動構造」は、典型的な受動文と英語の過去分詞形容詞文のような passive な意味合いを持つ表現の両方を含みます（以下では“PC”）。日本語にも受身表現は4例見つけましたが、いずれも例(12)のように日本語特有の視点の置き方を反映する間接受身文であり、感情の概念化を反映するものではありません。

- (12) 「それにあそこ、どうせこの時間はやたら暇なんだ。君が遊びにいけば喜ばれると思うな」『ア』

一方で、例(13)のような一人称の感情について、日韓中ではいずれも形容詞文を用いて表現するのに対し、英独ではPCによって表現される場合が見られました。

- (13) 日：「シロが誰かに絞殺されたと聞いたとき、おれは本当に切なかつたし、心から気の毒に思った。」『色』（形容詞文）

独：“Als ich hörte, dass Shiro erwürgt worden war, war ich zutiefst erschüttert.”

（受動構造：…私はショックを与えられた）

英：“...I was devastated, and felt really sorry for her.”（受動構造）

中：“...听说白被人勒死时，我真的难过极了，由衷地同情她。”（形容詞文）

韓：“...시로가 누군가에게 목을 졸려 죽었다는 말을 들었을 때, 난 정말로 안타까웠고 진심으로 불쌍했어.”（形容詞文：残念だった）

異なる構文パターンの選択は感情事象の概念化における5言語の相違を示唆しています。日韓中では、感情主は感情の経験者として役割が与えられ、感情は自ずから生起してくるものとして表現されており、感情生起の因果関係が表現されていません。一方英独語の場合、感情主は受け手、つまり外部原因からの働きかけ・影響によってある感情を引き起こされた人であり、それによって感情生起の因果関係が言語化されています。CCと同様、PCでも感情生起の外部要因を強調しているといえます。両者の違いは、CCが刺激物の前景化により感情生起の因果関係を捉えるのに対し、PCでは感情主が受け手であることを前景化することによって、同様の効果を得ている、ということです。〈使役〉と〈受身〉は、表裏の関係にあると指摘されています（池上1981）が、英独語の感情表現においては、いずれも感情主を刺激物から影響を受ける・感じる側として言語化する、すなわ

ち感情の生起における感情主の関わりを消極的なものとして概念化する点で共通しているといえます。⁽¹⁵⁾

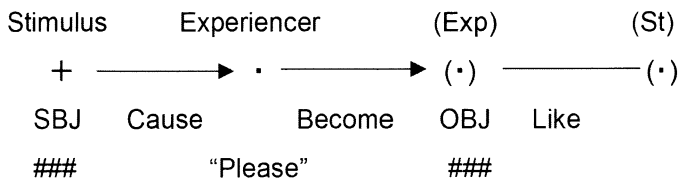
3.2.5 再帰文の多用

ドイツ語の感情表現のみに見られる独自の構文パターンが、再帰文です。再帰文が用いられた全用例を分析した結果、主に①原因・理由・意見の説明、②過去の感情の報告・説明、③質問に対する返答、④仮説、⑤不特定の人の感情（誰にとってもそうである）という五つの文脈・場面に使われていることが分かりました（例（14））。ただし、これらはいずれも「感情の描写」であり、「うれしい」「Xがうれしい」のようなその場における「感情の表出」を表す場合には再帰文の使用はありませんでした（王安 2006a）。このことから、再帰文は「感情の描写」を表す構文であり、感情経験を客観的に記述するものであると言えます（cf. 清野 2009）。

- (14) “Deshalb habe ich mich in ihn verliebt” 『羊』（原因説明）
 That is why have 再帰代名詞 her 惚れ込む、夢中になる
 日：「だから好きになったの。」

3.3 感情事象の概念化における 5 言語の傾向と差異（会話文）

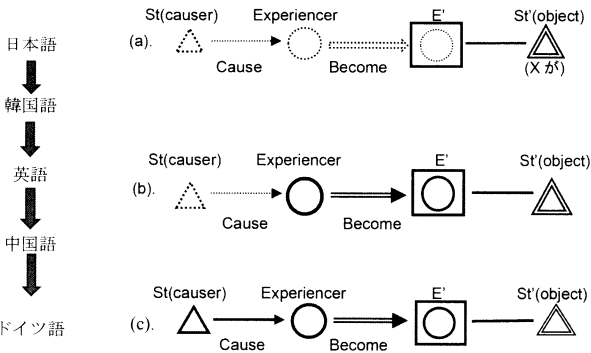
次に、認知言語学の因果連鎖モデルを援用し、ここまで見てきた慣習的な構文パターンから 5 言語の感情に対する捉え方を図式化していきます。因果連鎖モデルは、Croft (1993) によって提唱されたモデルで、図 1 のように事態参与者の間の関係を一連の因果の連鎖の観点から捉えようとする考えです。



〈図 1〉 因果連鎖（Croft1993：61）

喜怒哀楽といった様々な感情は刺激対象と経験主の相互関係の中で生じるものであることから、因果連鎖モデルの基本的な発想は感情事象における参与者同士の関係及び感情の生起プロセスの特徴を捉える際にも適用できると考えました。以下、5 言語の感情事象の概念化傾向を図 2 に示します（図 2 は Croft (1993)、谷口 (2005) を参考に修正を加えたもの）。

<感情の状態を重視>



<因果関係を重視>

〈図2〉5言語における感情事象概念化の傾向（会話文）

図2のaは日本語の、bは英語の、cはドイツ語の、それぞれの感情事象の概念化傾向を示しています。韓国語は日本語と英語の間に位置しており、中国語は英語とドイツ語の間に位置付けることができます。上から順番にみていくと、まず日本語の場合、感情生起の因果関係を重視せず、感情が自ずから生起してくるというように、感情の自発性を強調していることが分かります。次に、英語の場合は、感情主は何かの影響を受けることによって、感情の変化が起こされているのだという捉え方をしています。そして、ドイツ語は、感情生起における外部要因を重視し、感情を概念化する際に感情生起の因果関係を明確に表現しようとしていることが分かります。なお、中国語は使役構造が言語形式においても使用数においてもドイツ語に比べて少なかったため、ドイツ語と英語の間に位置付けるのが妥当なのではないかと判断しました。

このように、全体的に見れば日本語からドイツ語への順に、感情事象の概念化は感情の状態を重視する捉え方から感情の変化を重視する捉え方、そして感情生起の因果関係を重視する捉え方へと変化していることが、明らかになりました。

3.4 まとめ

ここまで、類型論的な観点から感情事象の概念化における言語間の特徴と傾向を考察し、記述してきました。考察に用いた言語間の比較可能な多言語実例データベースは、現時点では10作品の内4作品までしか確立していませんが、今後感情表現の研究全般に寄与することを期待しています。また、感情の普遍性に着目しつつ、体系的・通言語的に各言語の感情表現の諸相を明らかにすることによって、個別言語研究にも類型論的研究にも学際的な成果を示すことが期待できます。

4. 最近の研究状況及び今後の展望

最近は主に次の2点に注目し研究を続けています。一つ目は形容詞の主体性・主観性の問題で、これまで日中両言語の形容詞を対象に異同を考察してきました(王安 2013、2014、王安・上原 2019、王安 2021)。今後は英語の形容詞も調査対象に入れ、日英中三言語の形容詞の意味機能を考察していく予定です。

もう一つは今回お話しした感情表現の類型論研究の継続です。残りの6作品のデータを収集整理したうえで、専門家のアドバイスのもとで多言語感情表現用例コーパスを構築することを計画しています。また、これまで十分に考察ができなかったフランス語の感情表現についても調査を再開し、感情の普遍性と各言語の言語表現との関係性をより深く追究していきたいと思います。

以上、私の紙上講演を終わります。ご覧いただきありがとうございます。ごさいました。

参考文献

- 荒川清秀 (1985) 「日本語と中国語—中国語の感情(感覚)形容詞について—」『日本語学』3、62-65
- 東弘子 (1992) 「感情形容詞述語文における感情主の人称制限—叙述の立場から—」『日本語論究3』名古屋・ことばのつどい編集委員会、和泉書院
- 板東美智子・松村宏美 (2001) 「心理動詞と心理形容詞」『日英対照 動詞の意味と構文』影山太郎編、大修館書店 2001
- Croft, William (1993). Case Marking and the Semantics of Mental Verbs. Pustejovsky (ed.), *Semantics and the Lexicon*, 55-72
- Dixon, Robert M. W. (2004) "Adjective Classes in Typological Perspective". *Adjective Classes: a Cross-Linguistic Typology* ed. By Robert M. W. Dixon & Alexandra Y. Aikhenvald, 1-49. Oxford: OUP.
- Evans, Dylan (2001) *Emotion-The Science of Sentiment*, Oxford: OUP. [遠藤利彦(訳) (2005)、岩波書店]
- 藤田佐和子 (1991) 「「たのしい」と「うれしい」誘因と感情の時間的關係を視点として」『金沢大学国語国文』16
- 濱田英人 (2016) 「Langackerの言語観と主観性・主体化—事態認知の本質—」『ラネカウの(間)主観性とその展開』中村芳久・上原聡編、開拓社、121-157
- 池上嘉彦 (1981) 「『する』と『なる』の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論—」大修館書店
- 池上嘉彦 (2006) 「〈主観的把握〉とは何か—日本語話者における〈好まれる言い回し〉—」『月刊言語』(35) 5: 20-27、大修館書店

- 石綿敏雄(1973)「人間の精神活動を意味する動詞の用法—言語情報処理のための動詞句の分析・その1—」『電子計算機による国語研究5』国立国語研究所
- 岩澤勝彦(2001)「感情表出構文としての get 受動文と完了概念—意味の拡張と慣習化の間—」『意味と形のインターフェース上巻』くろしお出版
- Iwata, Seizi (1995) The distinctive character of psych-verbs as causatives. *Linguistic Analysis*, 25: 95-120
- 木村英樹(1991)「“他很高兴”」『中国語学習 Q&A101』大修館書店
- 金水 敏(1989)「「報告」についての覚書」『日本語のモダリティ』仁田義雄・益岡隆志編、くろしお出版
- 北原保雄(1991)「表現主体の主観と動作主の主観」『国語学』165、日本語学会
- Leff, J. P. (1973) Culture and the Differentiation of Emotional States. *British Journal of Psychiatry* 123: 299-306
- 町田 茂(1994)「感情形容詞の性質」『中国語学』241、日本中国語学会
- 三原健一(2000)「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」『日本語科学』8、国立国語研究所
- 三宅洋子(2008)「ドイツ語の感情動詞における格枠組みの文意味機能について」『ドイツ語を考えることばについての小論文集』三瓶裕文・成田節編、三修社
- 最上英明(1989)「ドイツ語の心的動詞をめぐって」『独語独文学科研究年報』15、1-7
- 最上英明(2006)「ドイツ語の心理動詞について—多義性をめぐって—」『香川大学経済論叢』79、85-93
- 村上佳恵(2017)『感情形容詞の用法—現代日本語における使用実態』笠間書院
- 中村 捷(2004)「心理動詞の意味構造」『言葉のからくり』河上誓作教授退官記念論文集刊行会、英宝社、37-48
- 中村芳久(2004)「主観性の言語学：主観性と文法構造・構文」『認知文法論Ⅱ』中村芳久編、大修館書店、3-51
- 西尾寅弥(1972)『形容詞の意味、用法の記述的研究』国立国語研究所編、秀英出版
- 西尾寅弥(1975)「「ほくは悲しい」けれど「彼女は悲しがる」—感情・感覚形容詞の特色—」『日本文法の見えてくる本』大久保忠利・奥津敬一郎編、汐文社
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究—主観性をめぐって—』南雲堂
- 大河内康憲(1997)『中国語の諸相』白帝社
- 大曾美恵子(2001)「感情を表わす動詞・形容詞に関する一考察」『言語文化論集』22巻2号、名古屋大学、21-30
- 佐々木勲人(2013)「ヴォイス構文と主観性—話者の言語化をめぐって—」『中国語文法論叢』白帝社、315-331
- 関 一雄(1981)「「かなしぶ」「かなしむ」「かなしがる」小考—中古仮名文字の用例について—」『山口国文』4、山口大学文学部国語国文学会、8-18
- 関 一雄(1982)「「うつくしむ」と「うつくしがる」をめぐって—中古仮名文字用語の一性格—」『山口国文』5、山口大学文学部国語国文学会、32-45

- 篠原俊吾 (2002) 「悲しさ」「さびしさ」はどこにあるのか『認知言語学Ⅰ：事象構造』西村義樹編、東京大学出版会、261-284
- 清野智昭 (2009) 「ドイツ語心理動詞の用法分析—interessieren を例に—」『千葉大学人文社会科学研究』19、18-34
- 鈴村直樹 (2005) 「ドイツ語の状態受動に関する一考察」『慶応大学日吉紀要：ドイツ語学・文学』40、75-129
- 武田みゆき (2004) 「“我也真高興”の非文性をめぐって」『中国語・日本語学論文集：平井勝利教授退官記念』記念論文集編集委員会編、白帝社、229-242
- 武市修 (1994) 「duan, tuon, machen について」『ドイツ語文学』92、55-65
- 谷口一美 (2005) 『事態概念の記号化に関する認知言語学的研究』ひつじ書房
- 寺村秀夫 (1982) 「感情表現—動的事象の描写と性状規定の境界域」『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- ウィリアム・クロフト (2011) 「事象構造と言語構造」『認知・機能言語学 言語構造への10のアプローチ』マイケル・トマセロ編、大堀壽夫他訳、研究社、113-145
- 上原聡 (2011) 「主観性に関する言語の対照と類型」『主観性と主体性』澤田治美編、ひつじ書房、69-91
- 上原聡 (2016) 「ラネカーの subjectivity 理論における「主体性」と「主観性」—言語類型論の観点から—」中村芳久・上原聡編 (2016) 『ラネカーの(間)主観性とその展開』開拓社、53-89
- 王安 (2003) 修士学位論文「現代日本語における感情表現の主観性について—感情形容詞の分析を通して—」北海道大学大学院文学研究科
- 王安 (2006a) 「感情事象モデルに基づく感情表現体系の研究—日中感情表現の対照による試み—」北海道大学博士学位論文
- 王安 (2006b) 「日本語の感情形容詞が持つ「表出性」とその振舞い」『日本認知言語学会論文集』第6巻、64-74
- 王安 (2011) 「中国語における心理述語使役文の意味と機能—日本語の感情形容詞表出文との対照を通して—」『日本認知言語学会論文集』第11巻、406-416
- 王安 (2013) 「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版、森雄一・高橋英光編
- 王安 (2014) 「認知言語学の観点から見た中国語感情形容詞の意味特徴と機能—感情表出の場合を中心に—」『国際学研究』第3巻、関西学院大学、83-90
- 王安 (2016) 「感情事象の表現パターンに見る感情の捉え方—6種の言語における調査結果に基づいて—」『日本認知言語学会論文集』第16巻、1-13
- 王安 (2017) 「行為連鎖から見ると感情表出の使役文と形容詞文との関連性」『日本認知言語学会論文集』第17巻、172-184
- 王安 (2018a) 「中国語の〈主観性〉の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編、開拓社
- 王安 (2018b) 「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバー

スペクティヴ』中村芳久教授退職記念論文系刊行会編、開拓社

- 王安・上原聡 (2019) 「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考える一性質形容詞とその重ね型を中心に」『日本認知言語学会論文集』第19巻、11-23
- 王安・上原聡 (2020) 「感情表現の構文パターンと感情の捉え方に見る言語表現の多様性と共通点—日韓中英独語を対象に—」『日本認知言語学会論文集』第20巻、180-192
- 王安 (2021) 「現代汉语形容詞重疊式の主観性と主観化的認知分析—以完全重疊式 AA 和 AABB 式为中心」『中国語文法研究』第10期、中国語文法研究会編、朋友書店、74-91
- 渡辺 実 (1991) 「「わがこと・ひとごと」の観点と文法論」『国語学』165、日本語学会、1-14
- Weigand, Edda (2004) *Emotion in Dialogic Interaction-Advances In The Complex*, John Benjamins, Amsterdam/Philadelphia.
- 八木克正 (1999) 「形容詞の意味と統語形式 (1)」『関西学院大学社会学部紀要』第82号、47-58
- 八木克正 (2011) 「英語形容詞の主観性」『主観性と主体性』澤田治美編、ひつじ書房、149-164
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』ひつじ書房
- 矢沢真人 (1998) 「日本語の感情・感覚形容詞」『言語』27、大修館書店、50-56
- 吉永尚 (2008) 『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院
- 張京魚 (2001) 「英漢心理使役動詞応用対比研究」『外語研究』2001 第3期、46-50
- 張 艶 (2013) 「心理使役類動詞的句法語義分析」『語文学刊』第12期、39-41

辞書類

- 日本語文法学会編 (2014) 『日本語文法事典』大修館書店
- ジェフリー・リーチ、ヤン・スヴァルトヴィック (1998) 『現代英語文法コミュニケーション編 (新版)』池上恵子訳、紀伊國屋書店

注

- (1) 研究者によっては「主観述語／心理述語」という呼び方もあるが、本稿では「感情表現」に統一する。なお、ジェスチャーなどの非言語的表現は含まれない。
- (2) 感覚形容詞は感情形容詞の一部として扱われる場合も見られるが、両者は意味と機能においていろいろな相違点があるため、本稿では感覚形容詞は感情形容詞の下位分類ではない立場を採る。また、紙幅制限のため、ここでは感覚形容詞を検討の対象から外す。
- (3) 西尾 1972、1975、寺村 1982、石綿 1973、大江 1975、関 1981、1982、荒川 1985、金水 1989、最上 1989、2006、渡辺 1991、北原 1991、藤田 1991、木村 1991、東 1992、Croft 1993、クロフト 2011、武市 1994、町田 1994、Iwata 1995、大河内 1997、矢沢 1998、三原 2000、大曾 2001、板東・松村 2001、岩澤 2001、篠原 2002、武田 2004、中村捷 2004、中村芳久 2004、Weigand 2004、池上 2006、三宅 2008、吉永 2008、清野 2009、八木 1999、2011、上原 2011、2016、佐々木 2013、張 2001、張 2013、村上 2017、等。
- (4) 西尾 (1972) は属性形容詞と感情形容詞の中間に位置する形容詞もあると指摘している。

- (5) The experience of another person is never directly available to us, just as our own experiences cannot be directly experienced by other people. We are all of us sentenced to solitary confinement inside our own skins (Leff1973 : 299).
- (6) 近年の心理学・神経学における感情の研究では、「喜び、怒り、驚き、悲痛、恐れ、嫌悪」という人間の基本情動 (Evans2001 : 6-8) は完全に教育・社会的な産物であるというわけではなく、人間の生物学的な反応や欲求に基づいた独自のプロセスを経るという点で固有的・生まれつきの側面を有しており、その点で人間に普遍的であると指摘されている (Weigand2004 : 8-10)。本研究が注目する感情の普遍性も、上記6種の基本情動の場合に限定する。
- (7) 構文の違いとは別に、言語によっては感情を表す語彙においても違いが存在する (Dixon2004)。例えば、日本語の「楽しい」「羨ましい」などの形容詞表現によって表される感情は、英語では「enjoy」「envy」などのように動詞表現が用いられる。なお、ここでは構文の違いのみ取り扱うことにする。
- (8) 学術振興会科学研究費基盤研究 (C)「研究課題：感情表現の構文パターンと感情の捉え方の認知類型の実証研究：日韓中英仏独語を対象に」(課題番号 16K02677、研究代表者：王安、研究分担者：上原聡 (東北大学))。
- (9) 感情の生起、発展のプロセスは王安 (2006a、2018b) を参照。
- (10) 構文パターンの各名称は基本的に日本語文法に従っているが、他言語とは必ず一対一で対応していない。例えば、英語の前置修飾や後置修飾・関係節などは名詞を修飾するという意味で本稿では一括して日本語の連体句に対応するものとして扱う。他の構文パターンの扱い方も同様である。また、この調査では時制、モダリティなどの影響を検討していない。ドイツ語の場合、3格か4格かという格の違いも考察範囲から外した。
- (11) 紙幅のため、Ⅵ、Ⅶについての説明は省略する。また、「その他」はほとんどが意識、未翻訳の例だったので、分析対象から外した。
- (12) この点について王安 (2006a、2016、2018b) ではより詳しい考察と分析を行っている。
- (13) この点について王安・上原 (2020) ではより詳しい考察と分析を行っている。
- (14) tut の語源であるとされている古高ドイツ語の tuon は元來使役的な意味であったと指摘されている (武市 1994:57)。
- (15) なお、現代ドイツ語において能動態と受動態には出現頻度に大きな差があり、受動態の割合は極めて低いと指摘されている (鈴木 2005 : 76)。こうした事実の下では、感情表現に PC が用いられていることが一層ドイツ語の感情の概念化の特徴を示唆する。

(おう あん／本学准教授)